

「日本の科学技術政策の要諦」を
発表した日本学術会議会長

くろかわ きよし
黒川 清さん



「日本では政策の95%を役所がつくっているが、われわれのよう
な独立した機関が役割を担うべき
だ」。物言う学者として、政府の
第三期科学技術基本計画（二〇〇
六―一〇年度）づくりを控え、五
十年先を見据えた「日本の科学技
術政策の要諦（ようてい）」を発
表した。

「信頼される国家になるため、
（女性や外国人も生き生き活動で
きる）共生社会の実現が必要」。

「環境や（先進国と途上国間
の）南北格差など世界規模の課題
がある中、科学技術に投資して日
本経済を活性化させようというだ
けではいけない」。そんな問題意
識が出发点となり、昨年から二百
十人の会員で議論して、教育改革
や自然との共生など十項目の国家
ビジョンとしてまとめた。

医療科学や病態代謝学の権威。

十四年の米国生活を経て帰国し、
母校の東大教授に。定年の際「私
の使命は人づくり。教育現場に残
りたい」と、大病院の院長ポスト
をけて東海大に転じた。

「理科離れというが子どもは好
奇心がいっぱい。少子や核家族化
が進んだいま、社会全体で子育て
するため、科学者もどんだ地域
社会に出ていかなければ」と訴え
る。

日本の科学者を代表する国の特
別機関の顔として世界を飛び回る
多忙の中、長男の幼い娘が遊びに
来るのが楽しみ。長女は自分同
様、米国で医者になったが「（会
えないのは）寂しいが、本人の選
択だから応援しないといけない」。
家族思いの一面がぞいだ。東京
都出身。六十八歳。